

NEWS RELEASE

2022年5月18日

日本豆乳協会

SOY2201

日本豆乳協会

2022年1-3月期における豆乳類の生産量が96,285kℓを達成

～ 在宅時間の増加や健康意識の高まりに伴い、
家庭内での豆乳の摂取がさらに普及し前年同期比100.9%に～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：藤村 公苗 キッコーマンソイフーズ株式会社 代表取締役社長、事務局長：杉谷 智博、以下豆乳協会）では、2022年1-3月期における豆乳市場の動向について検証したところ、豆乳類全体の生産量は96,285kℓとなり、前年と比較すると100.9%と多少、増加しています。

豆乳協会では、四半期毎に国内豆乳生産量を検証しており、豆乳類を分類別に見ると、最も生産量が多い「豆乳（無調整）」の生産量は29,038kℓ（105.5%）と引き続き増加傾向にあります。「調製豆乳」は、47,370kℓ（99.5%）、コーヒーや紅茶などの「フレーバー系の豆乳飲料（その他）」は、12,936kℓ（100.7%）と昨年をやや上回っており、「果汁入り豆乳飲料」は、3,693kℓ（94.2%）とわずかに減少しました。出荷量においても生産量と同様の傾向を示しています。なお、主に業務用を用途とする「その他」のカテゴリーにおいては3,248kℓ（92.1%）と、外食需要の減少による影響を受けました。

豆乳協会では、生活者が、豆乳の特長や成分の優位性に触れる機会が増えたことが後押しとなり、「豆乳（無調整）」の豆乳愛飲者のリピート購入が増え、特に、1-3月期においては、季節柄、豆乳鍋やシチュー等の料理需要が拡大したことが増加の要因になったと考えます。新型コロナウイルスの影響により、生活者の買い物の仕方にも変化が現れ、長期保存が可能な豆乳の需要がさらに高まったことも、一因とみています。

豆乳協会では、引き続き、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を4ℓに増加させ（2020年3.4ℓ / 総人口12,500万人）、年間総生産量を50万kℓにすることを目標に、豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発・啓蒙活動を展開していきます。

(参考)

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。昭和54年9月1日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

(株)VA インターナショナル
田中/岩野

メール : vai@va-intl.co.jp
TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017